



医療法人近森会

発行 ● 2006年6月25日

[www.chikamori.com](http://www.chikamori.com) 〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者・近森正幸/事務局・川添昇

# ひきはん

Vol.240

7月1日、近森リハビリテーション病院の院長が交替します。

## 謙虚にかつ前向きに 初心を忘れずに

近森リハビリテーション病院 新院長 今井 稔也

このたび四代目の近森リハビリテーション病院の院長に就任させていただきましたことになりました今井稔也です。簡単に自己紹介を致しますと、平成3年に高知医大（現高知大医学部）を卒業し、1年間福岡の研修病院で研修した後、平成4年から9年までの5年間近森リハビリテーション病院で仕事をしておりました。このため全く知らない地域に突然行く

のではなく、10年以上慣れ親しんだ地域でもあるため、地元に戻ってきた！といった気持ちにもなり、「院長」という大変な大役を仰せつかりながらも、幾分気持ちも楽に構えることができております。

東京では近森でやっていた動きをそのまま診療所活動に生かし、平成



9年より下町で在宅支援を中心とした診療所を開設しました。また平成15年には上野・浅草の地に「在宅総合ケアセンター元浅草」を設立し現在も活動中です。文字通り在宅維持期を総合的に支援する施設として全力で取り組んで参りましたし、今後もより一層発展を遂げると思っています。

そしてこの7月からは再び近森リハビリテーション病院で仕事をさせていただきますが、私自身が大切に思うことは、リハビリテーション理念そのものであり、これから日本の社会が抱える超高齢社会に対して、非常に重要なキーワードであることは間違いないと思っています。

医療や福祉サービスというものは地域と密着したサービスであり、また地域と共に成長していくものです。そして我々専門家の技術というのは、それを必要としている方々のためにあるものであって、常に利用してくださる方々がいて初めて仕事が成り立つものだと思っています。常に「利用したい」と思っていただけるようなサービスを提供していく姿勢を大切にし、前向きかつ謙虚に仕事をしていきたいと思います。

まずは近森の一員となり、ひとつひとつ頑張っていきたいと思いますのでどうぞ宜しくお願ひいたします。

### ホタル

近森 正幸



オーベルジュ土佐山にホタルがいるということで、休日に妻と二人で見に行くことにした。インターネットで調べてみると、三つのコースがあり、正蓮寺越え、旧鏡村の鏡ダム経由、そして円行寺から行くコースがあり、これが最短のように思われた。

夕方6時ぐらいだったか、最短コースを行くことにして家を出た。円行寺までは楽に快適なドライブを楽しめたが、道を間違えて柴巻に向かってしまった。

途中で気がついて、私たちはなんか元の道に出ようとひたすら車を走らせたが、高知市の夜景がどんどん間に見えるようになった。

どうやら高知市を見わたせる北山道に出てしまったらしい。そこで、旧土

佐山村役場まで6.5Kmの標識につられて再び北に方向転換して進むと、やがて道は狭まり片側は落ちたらまず助からないだろうと思えるような崖道に出てしまった。

ホタルを見に行って、高知市街から一山越えた土佐山の山中で遭難したのでは、なんとも浮かばれない。道はますます険しくなり、夜もとっぷりと暮れて、辺りは真っ暗やみの植林だった。しばらくそんな山道を上がったり下がったりしながら行くと、突然鏡川沿いの大きな道に出ることができ、ホッとした。

若いときならこれぐらいのことで遭難などと考えもしなかったのではと思う。しかし悲しいかな、歳を取ることで、街での日常生活のなかにも危険がいっぱいあるのを感じてしまう。お年寄りが日常のちょっとした動作でトラブルに見舞われるケースが多いのも実感できた。

車でホタルを見に行って、翌日二人とも足が筋肉痛になるほど、スリリングな思い出となった。

理事長・ちかもり まさゆき

# 20年目の感慨

医療法人近森会管理部長

川添 昇

## 駆け足、疾走、全速力、管理部長の回想

昭和61年（1986）8月15日発行の『ひろっぽ』▼『ひろっぽ』2号より転載 ▼当時を思い出し、お二人に談笑してもらっているところ  
第2号の1面トップには「川添新事務長、これから抱負を語る」と題した就任メッセージに、川添管理部長と宇田和子近森病院総看護師長（当時2病棟主任）の写真が載っている。以来20年、近森会の医療改革を管理部門で支え続けた川添管理部長に再びメッセージを寄せさせていただいた。

（『ひろっぽ』編集室）



思いだったが、「よし頑張るぞ！」の思いは同じだった。

それにしてもこの20年は「時と人を得る」ことが出来た連続であったのではないかと思う。時と人を得て理事長が決断する。その連続であったように思う。先日理事長と二人で話したとき「この20年、自分たちが歯を食いしばってやってきたことがやっと報われてきたね」と言われた。ほんとうに感激であり、嬉しくもあり心引き締まる思いだと思う。

医療について素人の私は、病院の専門職の皆さんにさまざまことを教えていただき、お世話になりながら働いてきたし、患者さんにも教えていただいた。前任の事務長は器の大きなかたで、事務の仕事はまったく教えていただけなかった代わりに、幅広い知識を吸収できるよう、たくさんの時間を与えて下さった。

入社後の30代の10年は畑を耕して種を播く時代だったと思う。前理事長が亡くなり現理事長が病院を継ぎ、私も事務長を要請された時、不安は大きかったが10年の経験が生かせるかも知れないと胸膨らませたのも事実であった。今思うと生意気盛りの38歳であった。

事務長になってからの20年も、ほんとうにいろんなことがあった。『ひろっぽ』の号数と同じ現職月数であるが、バックナンバー239号分をめくつてみると記事のひとつ一つの出来事が鮮明に思い出される。嬉しかった時、辛かった時、いつも理事長のもとでその思いを共有できたことが、いちばんの幸せである。

事務長になって6年目の平成4年の夏、出来上がった新館を高知橋から見て、私は「エライものが出来てしまった」、理事長は「これで十二分な闘いができる」とそれぞれの立場での

## 聴診器

### 一番の贅沢

ゴールデンウイーク。片道1時間30分、いつもの道ですが季節の移ろいを感じながら、夫と田舎までのドライブです。

私にとってこの季節は段々畠の茶摘みから始まります。一番茶の最後に、自分たちの飲み茶を大きな釜で煎り、揉んでゴザやエビラに広げて干します。新茶の香りが一面に広がり疲れを癒してくれます。「姉さんかぶり」にエプロン、もんぺ姿の出で立ちが最初は恥ずかしかったのですが「それが一番似合うねえ」の主人の一言にほだされて24年。板についた?頃、両親も年老いて徐々に田（手植え）や茶畠を近所のかたに作っていただきました。今年は雨間での手伝いとなりました。

いつもの段々畠での茶摘み風景も若者の姿ではなく、近くの老夫婦がいるだけで、そのご主人から「孝ちゃん、元気になる注射はないかねえ？」と声がかかりました。私は「ず~っと、二人でおることよ~」と笑って答えました。すると腰がすっかり曲がってしまった奥さんが「耳が遠くなつてねえ」と大きな声で言い直してあげています。長年連れ添ってきた夫婦のコミュニケーションです。太陽と緑の自然に包まれ、おいしい水が飲めるという暮らし。当たり前のことが、それがいちばんの贅沢と思えるこの頃です。皆さんも道端の小さな草花に目を留めてみませんか？癒されますよ。（近森リハビリテーション病院外来看護師長 田元孝子）



高知への着任早々、口腔ケアの重要性を説き、「高知の口のリハビリテーション研究会」を立ち上げたのを皮切りに、激動のリハビリテーション医療の世界で、高知県内にとどまらず全国規模の活動を数々手がけてこられた近森リハビリテーション病院の栗原正紀院長が、この6月いっぱいで院長を退かれ、新たな世界へ羽ばたかれることになった。そこで、「託す言葉」などお願いした。（編集室）

## 今後の抱負と、あとに託すこと

# 誇りと励みと…

平成13年6月に近森リハビリ病院の院長として着任して5年間、地域医療のあり様をわたしなりに模索してきました。見えてきたことは「病気を治すだけの医療はもはや過去のものであり、あくまでも地域住民の安心した生活を支えるために存在すべきである」ということです。急速な医療改革のもと、明確な機能分化・入院期間の短縮化が求められる急性期医療に対して回復期のステージである当院の果たすべき役割についてみんなで議論し、そして実行できるような体制作りを行なってきました。

掲げた旗は「どのように年老いても、どのような障害があっても住み慣れたところで、その人らしく安心して暮らせるように支援する」という「救急から在宅に至るまで幅広く包括した地域リハの思い」です。そのための運営方針は“急性期（救急）医療をしっかりと支え、地域生活への架け橋（医療と介護のつなぎ手）としての回復期リハ病棟”的表現でした。

課題は連携、チームアプローチそして教育に尽きます。①“連携”的基本は顔の見える関係づくりであり、とくに急性期病院との密接な関係構築に亘り急性期医療の場としてのリスク管理能力の充実に努めました。また、②“より良いチーム医療”を開拓するためには、それぞれの専門職の技術面での研鑽と共に個々人のコミュニケーション能力の向上が前提であり、非常に重要なテーマです。そのため③種々の教育・研修会（リハ塾など）の充実を図りました。近森リハ病院は好むと好まざるとにかかわらず、全国の先頭に立っています。このため、いつも新たな課題を明らかにし、自分たちで克服していかざるを得ません。誰も回答・対策を伝授してくれはしません。むしろ発信していく位置づけにあるのです。今後もいろんな問題・課題が出てくることでしょう。

しかし、どんな時でも①問題を直



て行くことを楽しみにしています。

私事ですが、今後、わたしは長崎に近森リハ病院を原点とした拠点づくり（リハビリ専門病院の開設：平成20年4月予定）を目指します。開設までの間は、近森リハグループを側面から支援していく様に頑張っていく所存です。いつまでも仲間の一員であることが誇りであり、常に前を向いていくための励みであることをみんなで大切にしたいものです。（栗原正紀）



## タダほど高いものは：

「これは百円の品ではありませんが、今日は皆様にあげちゃいます。でも、さっきの所でわつと人が集まつたので足りなくなりました。午後にはトラックで品物が届きます。見て、こう言つた。

「これは百円の品ではありませんが、今日は皆様にあげちゃいます。でも、さっきの所でわつと人が集まつたので足りなくなりました。午後にはトラックで品物が届きます。見て、ここで品物を貰つて下さい。その時刻が近づくと、先の男は団地のドアを次々に叩いて勧誘した。「さあ、こちらへ」と彼が先導したのは、隣家の駐車場であつた。いつも間にかそこには風除けのビニールシートが張りめぐらされ、電気カーペットまで敷きつめられていた。これへ土足でというわけにもいくまいと、私たち十数人は靴を脱いであがつたものの、皆立つたままだ。

「他人に物を貰うときは、お礼ぐらい言つたらどう？」  
「まだ、胡散臭そうに白い眼でこつちを見ている人が二人ばかりいる。こうして一時間近く経つた頃、突如彼の膝の上に十五万円也のポータブルマッサージ器が出現した。彼らの魂胆はこれだつたのだ。  
春光を払つて香具師の貌となる

## 災害訓練2006 in 高知新港

6月4日7時30分集合で、近森会からも根岸正敏ER部長や山本彰呼吸器外科部長、近森院長をはじめ急救スタッフが参加。南海地震を想定し県全域から1,400人集合の大規模総合防災訓練が行なわれた。現場医療救護所には他に国立高知病院、高知赤十字病院も参加した。



## 薬剤投与病院実習を修了

去る5月15日からの合計5日間、薬剤投与の実習を仁淀消防組合消防

本部救急救命士の渋谷良八さんが修了されました。「ERチームのいい雰囲気のなかで様々な知識や技術を学び、座学、シミュレーションでは経験できない貴重な体験をして、『習うより慣れろ』を痛感した」とのことです。同意をいただいた患者の皆様をはじめ、ERの先生方や看護師さん、ありがとうございました。



※誌面の都合で8面記事が移動しています。

### 5月の退職者 敬称略

- ◆15日付、下村美和・薬局薬剤師
- ◆31日付、山本周平・内科医師、黒岩泰子・老健いごっぱち看護師、池澤景子・第二分院医療相談室、弘瀬克美・経理課長

### 5月の診療数

|             |         |
|-------------|---------|
| 近森会 外来患者数   | 19,451人 |
| 近森会 新入院患者数  | 845人    |
| 近森会 退院患者数   | 848人    |
| 地域医療支援病院紹介率 | 83.59%  |
| 近森病院平均在院日数  | 14.37日  |
| 近森会 平均在院日数  | 21.58日  |
| 近森病院救急車搬入件数 | 409件    |
| うち入院件数      | 192件    |
| 手術件数        | 352件    |
| うち手術室実施     | 258件    |
| 全身麻酔件数      | 127件    |

企画情報室

## 第4回 公開県民講座

日時 平成18年7月15日(土) ~ほんとうにうつ病は心の風邪?~

午後2時~4時 近森病院第二分院精神科医師

会場 高知市文化プラザ 入場無料 渡邊真里子

「かるぽーと」大ホール 「うつ病が治るとは、

どういうことなのだろう?」 ~リハビリ・ディケア

~特に働き盛りのうつ病の

リハビリについて~ 「パティオ」の経験から~

近森病院第二分院副院長 宮崎洋一

問い合わせは地域医療連携室まで

## ハッスル研修医 第二部 vol.2

### 研修生活と 一人暮らし

研修医

土居 江里奈



高矢くんに引き続き、ハッスル研修医コーナーの2番手を担当させていただきます。

私はこの1年は麻酔科(2週間)→ER(3ヶ月)→外科(3ヶ月)→内科(6ヶ月)の順に回ることになりました。ということで私は現在ERで研修しています。

研修が始まって1ヶ月が経とうとしていますが、日々自分の無力さを痛感するとともに臨床の現場というものの厳しさを感じます。今まで医学部で勉強してきたこととはまた違って覚えること、勉強しなければならないことがいっぱいです。(笑)。

また、この4月から遅ればせながら人生初の一人暮らしを始めました。楽しい、でもちょっと寂しい(笑)と思いながら、社会人としても私はまだまだ未熟だなあと考えている今日この頃です。いまさらながら、家族のありがたさというものを身にしみて感じています。

この2年間で知識や技術を身につけるだけでなく、人間としても成長していく医師になれるように頑張っていきたいと思います。まだまだ分からぬ&できないことだらけで、毎日皆さんに迷惑ばかりかけて申し分けありませんが、これからもよろしくお願いします。

## 第33回 地域医療講演会

日時 平成18年8月20日(日)

午後2時~3時30分

会場 文化プラザ「かるぽーと」大ホール

内容 「命を支えるスープ: 食を考える

ー病院で、家庭でー

講師 料理研究家 辰巳芳子先生

申し込み要 入場無料

申し込み方法など 詳細は、近森会ホームページを7月中旬からご覧下さい。www.chikamori.com

病院やご家庭で病を患っている方々にとって、生命の維持に最も重要な『食』について講演していただきます。近森会でも栄養サポートチームや口のリハビリチームを始め、スタッフ一同が美味しいお食事を口から食べて、早く元気にご家庭に帰れるように、思いをこめて勤めております。病院で、あるいはご家庭で、流動食をはじめ、すべての『食』について一緒に見つめなおしませんか。

## 第4回 日本医療マネジメント学会高知県地方会

日時 平成18年8月27日(日)午前10時30分~午後4時

会場 高知市文化プラザ「かるぽーと」

会費 有料 テーマ 「医療の質と安全」

特別講演「医療の質向上するには~医療の質マネジメントシステム~」

講師 棟近雅彦先生 早稲田大学理工学部経営システム工学科教授

※ 詳細はホームページをご確認下さい。http://jhm.kochi.chikamori.com

## 第15回 近森病院クリニカルパス大会

日時 平成18年8月5日(土)午前9時~12時

会場 高知文館「白鳳の間」

内容 全人工膝関節置換術の連携パス

## 禁煙治療が保険適用に

内科循環器科部長

川井 和哉



看護師などの要件があり、どの施設でも保険診療が受けられるわけではありません。本来は、「だれでも、どこでも、いつでも」つまり喫煙者が思い立ったときに近くの医療機関で禁煙治療が受けられる、というのが望ましい姿だと思います。

ただし、問題点もあります。これまでは2、3回の通院で禁煙治療を行なっていましたが、保険診療では5回(12週間)の通院が必要です。プリンクマン指数(喫煙本数×年数)200以上という条件があり、若い世代への禁煙支援は困難です。手術前など、入院患者には保険適用が認められていません。また、医療機関側に施設基準が設けられたことで、病院や診療所の敷地内禁煙が広まることでしょう。一人でも多くの方が禁煙できるよう、我々「禁煙サポートチーム」も協力させていただきます。

### ● 7月の歳時記 ●

#### 朝顔 文:HCU看護師 高橋 理江

花言葉は、愛着・愛情の絆、仮装、はかない恋。もとは朝の「容花(かおばな)」とよばれていた。容とは美しい容姿の意味で、蔓は左巻き。中国を経て薬用として輸入された帰化植物で、フランスでは「真昼の美女」

と呼ばれています。これに香りが加わったら完璧と称えられています。また、ヨーロッパでは「勇気とエネルギーの象徴」とも言われています。

画:

千光士  
可苗

### コミュニケーション 1

私はなぜなのか、相談されることが多いです(仕事柄もあるのでしょうか)。先日、再就職をした友人Sさんと一緒に、押し花教室に参加したことがあります。「ねえねえ、聴いてくれる? 職場には、私を含めて女性は4人なの。歳は私よりもかなり年下。入職して1ヶ月目に、仕事が終わり3人に呼び出されて、私の気に入らないところを一方的に言われて…」と話は2時間近く続きました。確かに入職は一番遅い立場ですが、自分よりも年下に小言から屁理屈をたくさん言わされたようで、彼女にとって、とてもショックな出来事だったと思います。

参考・引用文献: 安全と健康 Vol7 No1 2006

私の友人Sさんは、理屈に合わないことを言われまた、注意よりももっと嫌な小言・悪口を言われています。しかしSさんは、相手の言い分をよく聞いたようです。泣きながらも、自分が不快にさせていたことにも謝ったそうです。それでも、相手は腹を立てていたようです。相手は、屁理屈を言わないとそれ以上の手段がない、相手はすでに負けていることを認めたくないと感じているのかもしれません。コミュニケーションは、相手のミスを突き、言い負かすことではないはずです。

私の友人のように言われた時でも、なぜ? そう言われたのかを考えるようにしましょう。

人は他人の行動に敏感ですが、自分の行動には鈍感です。もしかすると、知らず知らずのうちにSさんの言動や行動が、3名の彼女達の心に抵抗・反抗を生んでいたのかもしれません。(続く)

▲「お味が楽しみ」「こね方のコツを覚えましょ!」

◀カメラマンはいつも岡本さん。「じゃ撮りますよ~」

大切なことを教わることもあると思っていました。イベント案内を見かけたら、ぜひ気軽に参加して下さい!(川竹 亜子)

2006年5月27日  
地域生活支援センターこうち

かしわ餅パーティー

5月といえば子どもの日。子どもの日と言えば「かしわ餅」。というわけで、地域生活支援センターにおいて「かしわ餅パーティー」を開催しました! 日頃の利用者の方々に加え、近森病院の栄養士さんたちにも参加してもらい、2時間かけてぬくぬくの手作りかしわ餅が完成! こころゆくまでお張りながら、休日のひととき、みんなで温かい気持ちになりました。ホッ…

地域生活支援センターは、精神障害のある方々の生活支援を行うところで



▲「お味が楽しみ」「こね方のコツを覚えましょ!」

◀カメラマンはいつも岡本さん。「じゃ撮りますよ~」

## 出張報告 ● 米国胸部外科学会参加とハーシーメディカルセンター見学記

# 「忘れられない経験と大きな自信・目標を見出し!!」

臨床工学技士：長尾 進一郎／手術室看護師：桑原 理沙・乗名 沙織

2006年4月22日から14日間に亘り、心臓血管外科の入江部長、院外から参加の篠原さん（泉工医科工業）を含め①米国胸部外科学会（AATS）と②ハーシーメディカルセンター（HMC）の見学に行かせていただいた。

入江部長を除くアメリカ本土初上陸の4名は、期待と不安を抱えながらニューヨークへいざ出発。到着2日後に、院内の英会話スクールで学んだ4人の英語力を試す機会があった。4人は、アメリカ（英語・人・文化）に慣れるべく、余暇を利用し「自由の女神に会いに行こう」計画を立て、地図を片手に地下鉄を乗り継ぎ、数々の難所（チケット購入など）をクリアし、辿り着けたことが後の研修を行う上で自信になった。

さて研修は、①フィラデルフィアで開催されたAATSに参加し、世界の医療を発表・議論する場や日本ではまだ認可されていない最新機器を目の当たりにでき、みんな興味津々だった。②チョコレートで有名なハーシーは、町中甘い香りに包まれてとても穏やかな人びとが多く綺麗な町だった。

そんな町で「ペンシルベニア州最後のとりで」と言われるHMCでは、2例の心臓手術に立ち会った。手術開始から終了までの流れや、サポートするスタッフの業務にギャップを感じることはなく、私たちが日ごろやっていることは世界に通用すると実感した。

また、直介看護師や人工心肺操作者は熟練したスタッフであり、判断スピード・正確性・技量ともに実力差を感じ、未熟さを痛感した。設備で驚いた点は、手術で使用する物品（人工弁や手術器具など）は全て指紋認証システムによるセキュリティ管理で、使用者および使用・在庫数を中央管理していた。

HMCでは、見るもの全てに刺激を受け、各自が「大きな自信」と「大きな目標」を見出しきることが一番の収穫だった。医療従事者、また人間としてもまだまだ未熟な私たちであるが故に、多くの

ことに興奮し、刺激を受け、忘れる事のできない経験となった。今回の研修で学んだ貴重な知識や経験をもとに、それぞれの分野でレベルアップしていきたい。最後にみんなの意見を聞くと口を揃えて「また行きたい」と意欲を燃やしていた。

## 追伸のオススメ

激辛料理通で知られる入江部長を唸らした四川鍋（新陳代謝が最高潮になり寝るに寝れない辛さ）は、時差ボケには絶大なる効果を発揮しました。（ぜひ試してみられては……）。

さて研修は、①フィラデルフィアで開催されたAATSに参加し、世界の医療を発表・議論する場や日本ではまだ認可されていない最新機器を目の当たりにでき、みんな興味津々だった。②チョコレートで有名なハーシーは、町中甘い香りに包まれてとても穏やかな人びとが多く綺麗な町だった。

そんな町で「ペンシルベニア州最後のとりで」と言われるHMCでは、2例の心臓手術に立ち会った。手術開始から終了までの流れや、サポートするスタッフの業務にギャップを感じることはなく、私たちが日ごろやっていることは世界に通用すると実感した。

また、直介看護師や人工心肺操作者は熟練したスタッフであり、判断スピード・正確性・技量ともに実力差を感じ、未熟さを痛感した。設備で驚いた点は、手術で使用する物品（人工弁や手術器具など）は全て指紋認証システムによるセキュリティ管理で、使用者および使用・在庫数を中央管理していた。

HMCでは、見るもの全てに刺激を受け、各自が「大きな自信」と「大きな目標」を見出しきることが一番の収穫だった。医療従事者、また人間としてもまだまだ未熟な私たちであるが故に、多くの



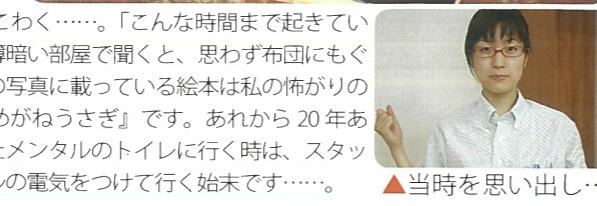
ハーシーのどかな風景と、ハーシーを見学させていただいたハーシーメディカルセンター遠景



## 私のルーツは幼稚園教諭の母…

メンタル  
クリニックちかもり

心理士 鹿間 明子



▲当時を思い出し…

## 人物ルポ 234 ● 食とトータルマネジメントのサービス企業・エームサービス(株)／遠藤 博史さん

## 趣味も仕事もやっぱりチームワークが大事です



もちろん調理場に立つことも、ある



▲遠藤支配人の机はこの後ろ、調理場に最も近いと良い方法はないかと観察することも支配人の役割だと考えているそうだ。

サッカーを小学校4年生からずっと続けてきた。近ごろは勤務の都合で少し休んでいるそうだが、まだ数年は当地の勤務が続きそうだし、妻の美香さんの異動もそろそろ調整がつきそうだから、再開が近いのかも知れない。

口を出し過ぎず、物静かでシャイな司令塔は、「料理も趣味もやっぱりチームワークが大事ですから」とニッコリ。



## リレーエッセイ

## ホットヨガでホット…

介護老人保健施設いごっぱち

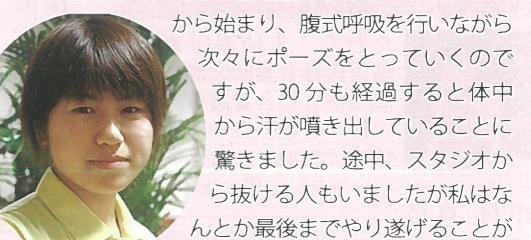
介護福祉士 安岡 知未

で私を含め1レッスン8人とヨガの先生が1人でした。最初はウォーミングアップから始まり、腹式呼吸を行なながら次々にポーズをとっていくのですが、30分も経過すると体中から汗が噴き出していることに驚きました。途中、スタジオから抜ける人もいましたが私はなんとか最後までやり遂げることができ終った後もしばらくはボーッとしていましたが、久しぶりに大量の汗をかき爽快感でいっぱいでした。

ヨガの先生にお聞きしたところ初めのうちはヨガのポーズをとるのにやっとですが、1カ月程すれば楽にポーズをとることができます。

今回、私が行ったヨガスタジオは1日5回レッスンを行っているそうなんですが、先まで予約がいっぱいで予約を取るのが難しいようです。

最近、運動不足な方、そうでない方も今流行の「ヨガ」を始めてみませんか？



シリーズ●クリニック探訪17 さんさんクリニック 大橋通り商店街から南へ信号ふたつ越えた西側  
(高知市鷹匠町一丁目) tel. 088-822-5531



院長・下保訓伸(かほくにまのぶ)  
S36年7月25日生。趣味はスポーツ観戦



▲歯科院長・中野孝三郎。S37年4月22日生。病院内に併設された歯科としての特色を活かして診療を行なっております。

▲理事長・下保登喜夫(放射線科、内科、胃腸科)  
S3年1月1日生。「高知県胃癌死亡ゼロ宣言」を目指し掲げ老骨にむち打ち診療に励んでおります。



ゆったりと大きな窓も気持ちの良い待合いホール



▲人に優しい医療をモットーに、職員一同日々がんばっております。

地域の方々に、医療・介護について、何でも気軽に相談していただける

ような診療所を目指しています。

**診療科目** ●整形外科、リウマチ科、  
リハビリテーション科、内科、放射線科、胃腸科、  
歯科、歯科口腔外科、小児歯科

**診療時間** ●9:00～13:00  
14:00～18:00

**休診日** ●日曜、祝日

<http://www.kochi-web.com/hp1/sunsun/ma.012099@mail.mc.ne.jp>

## 図書室便り

(2006年5月受入分)

- Mathes Plastic Surgery Second Edition 1～8/Vincent.R(他著)
- 癌・治療効果判定の画像診断 / 田中良明(他編集)
- 整形外科・病理 悪性軟部腫瘍取扱い規約 / 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍委員会(編集)
- 臨床指導医養成必携マニュアル / 岡田唯男(他著)
- 第2版 医療情報 情報処理技術編、医療情報システム編、医学・医療編 / 日本医療情報学会 医療情報技師育成部会(編集)
- 日経病院ランキング 心臓病治療の実力病院 / 日本経済新聞社(編集)
- 病院機能評価 統合版新評価項目 解説集 / 有賀徹(他著)
- 《別冊・増刊号》
- 別冊 医学のあゆみ 五感の生理・病理・臨床 / 今西二郎(編集)
- 月刊 Medical Technology 別冊 超音波エキスパート5 消化管超音波検査－抽出のコツと判読のポイント－ / 長谷川雄一(編集)
- 透析ケア 2006年夏季増刊 透析患者の心臓と血管を守る!心臓血管系合併症の基礎知識 / 斎藤明(監修)
- 泌尿器ケア 2006年夏季増刊 ズバット解決! 泌尿器ケアのトラブル50 / 篠善行(監修)
- 《ビデオ・DVD》
- Video Journal of Japan Neurosurgery vol.14 No.2 / 日本脳神経外科学会(監修)

## 編集室通信

▼「縁」は不思議なもの、と改めて思うことがあります。「繋がっている」「どこかで大きな力が働いてるんだな」と感じる瞬間。私事ですが、こんな不思議を経験しました。20年以上前、栄養士の卵の時代に出会った一冊。心の軸を磨かれていくような一言一句に、折々に開いてきた本。その著者で

ある方に、この夏お会いできる機会が創られたのです。料理研究家の辰巳芳子さん、といえばご存知の方も多いでしょうか。8月の地域医療講演会に講師として来高してくださることとなりました。テーマは「命を支えるスープ」。先生をまだご存知ない方にも、新しい「縁」の始まりとなりますことを願っています。ぜひ、会場でお会いしましょう!(妃佐)